

PROMライター&イレーサー

Palette-22
ユーザーズ・マニュアル

LOGIC PACK

注意

【ユ - ザ登録カード】

同封されているユ - ザ登録カードに必要事項を漏れなく記入して直ちに御返送頂けますようお願いいたします。技術的な問い合わせ、バージョンアップなどのお知らせは、このカードに基づいて行われます。また、ユ - ザ登録カードの返送をもって保証書に代えさせていただきます。

【保証】

本製品が万一故障した場合は、購入日から満6カ月間無料修理を致します。当社まで御返送下さい。また返送前に1度御連絡下されば幸いです。

次の場合は、保証期間内でも保証の対象にはなりません。

使用上の誤り

当社以外での修理、改造、調整、分解

ユ - ザ - 登録がされていない(ユ - ザ登録カード未返送)

天災等による故障

お客さまによる輸送、移動時の落下等による故障

【問い合わせ】

本製品に対する技術的な問い合わせはユ - ザ - 登録の完了をもって可能となります。また、本製品を使ううえで、MS - DOSの理解が必要ですが、MS - DOSの操作に関する質問はいっさい受け付けられません。御了承下さい。

P a l e t t e - 2 2 ユ - ザ - ズ ・ マニュアル

この度は、PROMプログラマ、『P a l e t t e - 2 2』をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。P a l e t t e - 2 2 は、低価格ながら数々の機能を持っています。本製品の性能を十分に引き出してご使用頂くために、このユ - ザ - ズ ・ マニュアルを熟読されるようお願いいたします。

本製品の使用により生じた損害にたいする一切の責任は負いかねます。

M S - D O S はマイクロソフト社の商標です、他本書で取り上げるデバイス名は、一般に各メ - カの商標です。

C o p y r i g h t (C) 1 9 9 2 株式会社ロジパック

目次

第1章 外観及び機能

第2章 準備

2.1	Pa l e t t e - 2 2 に付 属 す る も の	2 - 1
2.2	Pa l e t t e 2 2 本 体 の 準 備	2 - 1
2.2.1	電 源 ス イ ッ チ の 投 入	2 - 1
2.2.2	デ ィ ッ プ ス イ ッ チ の 設 定	2 - 2
2.2.3	デ バ イ ス の 装 着 、 脱 着	2 - 2
2.3	コ ン ト ロ - ル プ ロ グ ラ ム の 準 備	2 - 3

第3章 メニュー - コントロ - ラ P T 2 2

3.1	P T 2 2 の 起 動	3 - 1
3.1.1	起 動 オ プ シ ョ ン	3 - 1
3.2	基 本 操 作	3 - 1
3.3	ス テ - タ ス ウ イ ン ド に つ い て	3 - 2
3.4	メ イ ン メ ニ ュ -	3 - 3
【 F ・ 1 】	デ バ イ ス の 選 択	3 - 3
【 F ・ 2 】	フ ァ イ ル の 読 込 / 保 存	3 - 4
	フ ァ イ ル の ロ - ド	3 - 4
	フ ァ イ ル の セ - ブ	3 - 5
【 F ・ 3 】	デ バ イ ス の 読 込 / 書 込	3 - 6
	ブ ラ ン ク チェ ッ ク	3 - 6
	書 き 込 み	3 - 6
	読 み 込 み	3 - 6
	プ ロ グ ラ ム	3 - 6
	比 較	3 - 7
	イ レ - ス	3 - 7
【 F ・ 4 】	バ ッ フ ァ ク リ ア	3 - 7
【 F ・ 5 】	バ ッ フ ァ 編 集	3 - 7
〔 F ・ 1 〕	ア ド レ ス	3 - 8
〔 F ・ 2 〕	サ - チ	3 - 8
〔 F ・ 3 〕	フ ィ ル	3 - 8
〔 F ・ 4 〕	ム - ブ	3 - 8
〔 F ・ 5 〕	リ バ - ス	3 - 8
〔 F ・ 6 〕	ク リ ア	3 - 8

【 F・7】	10 16進	3 - 8
【 F・8】	16 10進	3 - 8
【 F・6】	バッファ設定	3 - 9
スタ - トアドレスの設定		3 - 9
バッファタイプの設定		3 - 9
【 F・7】	イレ - サのON / OFF	3 - 9
【 F・8】	ステ - タスの保存	3 - 9
【 F・9】	チャイルドプロセスの起動	3 - 9
【 F・10】	終了	3 - 9

第4章 コマンド入力コントロ - ラ P T 2 2 C

4 . 1	P T 2 2 Cの起動	4 - 1
4 . 1 . 1	起動オプション	4 - 2
4 . 2	P T 2 2 Cのメッセ - ジ	4 - 3
4 . 3	P T 2 2 Cのコマンド	4 - 4
4 . 3 . 1	コマンド解説の規約	4 - 4
4 . 3 . 2	システムコマンド	4 - 5
?	コマンド (コマンド一覽表示)	4 - 5
!	コマンド (M S - D O S)	4 - 6
K	コマンド (ポ - ズ)	4 - 6
Z	コマンド (ブザ -)	4 - 7
Q	コマンド (終了)	4 - 7
4 . 3 . 3	設定コマンド	4 - 8
T	コマンド (デバイスセレクト)	4 - 8
B S	コマンド (バッファスタ - トアドレス)	4 - 8
B T	コマンド (バッファタイプ)	4 - 9
4 . 3 . 4	バッファコマンド	4 - 10
C	コマンド (バッファクリア)	4 - 10
D	コマンド (バッファダンプ)	4 - 10
4 . 3 . 5	デバイスアクセスコマンド	4 - 11
B	コマンド (ブランクチェック)	4 - 11
R	コマンド (デバイスリ - ド)	4 - 12
V	コマンド (デバイスベリファイ)	4 - 12
W	コマンド (デバイスライト)	4 - 13
P	コマンド (デバイスプログラム)	4 - 14
4 . 3 . 6	ファイルコマンド	4 - 15
L	コマンド (ロ - ドファイル)	4 - 15
S	コマンド (セ - ブファイル)	4 - 16

付録 A 用語の解説

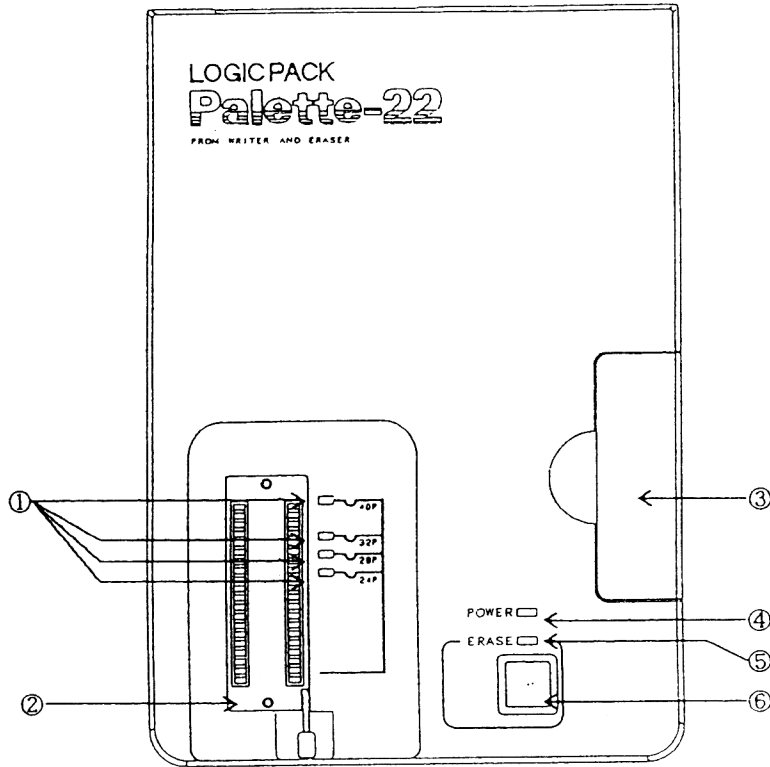
A . 1	オフセット	A - 1
A . 1 . 1	ファイルの読込	A - 1
A . 1 . 2	ファイルの保存	A - 2
A . 2	バッファスタ - トアドレス	A - 3
A . 3	デバイスアクセスモ - ド	A - 4
A . 4	バッファタイプ	A - 5

付録 B P T 2 2 C エラ - メッセ - ジ

付録	D O S / Vバージョンについて
付表	デバイス一覧表

1. 1 各部の機能

〔正面〕



① ピンサイズLED

コントローラでデバイスを選択することによって点灯します。現在の選択しているデバイスのピンサイズを示します。また、電源をONしたときに約3秒間全部点灯します。

② 40ピンソケット

デバイスを装着、脱着するソケットです。

③ イレーサ部

EPROMのデータを消去するときに使用します。扉が開いている状態では、イレーサランプは点灯しません。

④ パワーLED

電源スイッチをONすると点灯します。

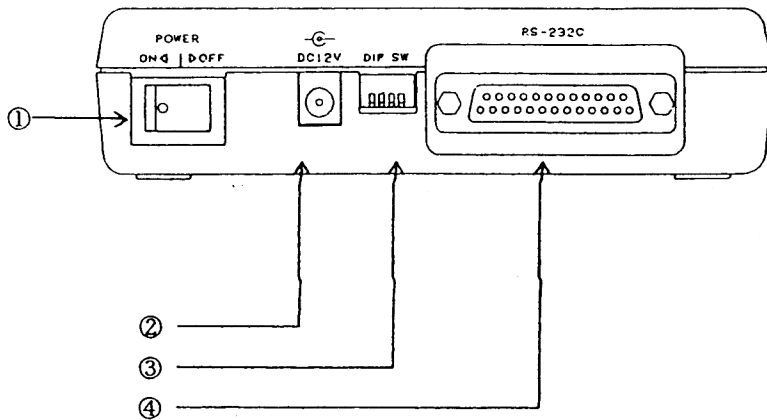
⑤ イレーサLED

イレーサランプの点灯/消灯を示します。

⑥ イレーサスイッチ

イレーサランプを点灯/消灯します。

[背面]



① パワースイッチ

電源をON/OFFします。

② ACアダプタ用コネクタ

付属の専用ACアダプタを接続するコネクタです。

③ ディップスイッチ

各種設定を行います。

④ RS-232Cコネクタ

RS-232Cインターフェースを持つ機器と接続し、本体のコントロールまたはデータ転送を行います。

2.1 Palette - 22 に付属するもの

・ Palette - 22 ユーザ - マニュアル	1冊
・ ユーザ登録カード	1枚
・ フロッピ - ディスク 5 インチ 2 HD	1枚
3.5 インチ 2 DD	1枚
・ Palette - 22 本体	1台
・ 専用 AC アダプタ	1個
・ RS 232C ケ - ブル	1個

2.2 Palette 22 本体の準備

2.2.1 電源スイッチの投入

電源スイッチを ON する前に以下の準備、確認をしてください。

本体に AC アダプタを接続

コンセントに AC アダプタを接続

デバイスがソケットに装着されていないことを確認

ディップスイッチを設定 (後述)

RS - 232C ケ - ブルをパソコン、本体間に接続

(電源を ON した後でも良い)

電源を ON したら以下の確認をおこなってください。

パワー - LED が点灯

ピンサイズ LED がすべて約 3 秒間点灯したのち消灯

注) ピンサイズ LED がすべて点灯している間 (約 3 秒間) はコントロールできません。コントロールプログラムの起動は消灯した後に起動してください。

2. 2. 2 ディップスイッチの設定

1) 通信速度の設定

本体の通信速度を決定します。

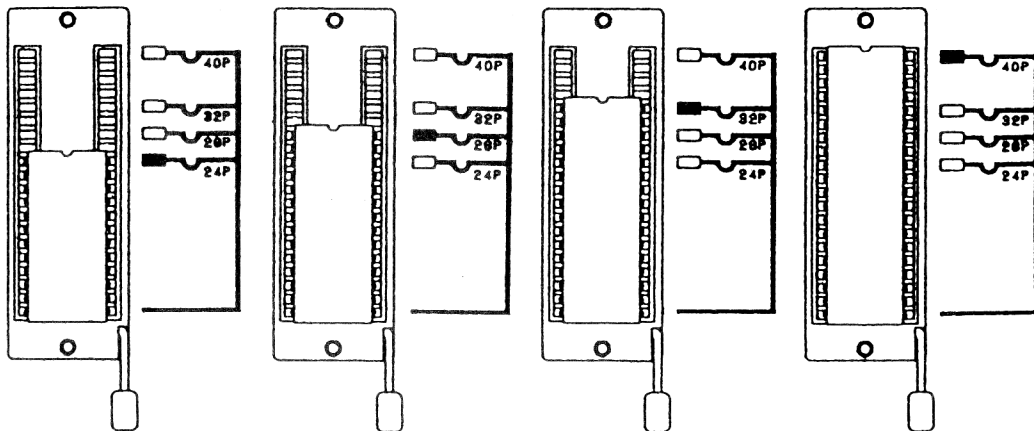
ディップスイッチ	1	2
9600bps	OFF	OFF
19200bps	ON	OFF
38400bps	OFF	ON

ディップスイッチ 3、4はOFFにしておいてください。

2. 2. 3 デバイスの装着、脱着

デバイスの装着、脱着はコントロールプログラムでデバイスアクセスコマンドを発行していないときに行ってください。また、デバイスを選択してから装着してください。

ソケットのレバーを起こした状態で、デバイスの向きに注意して下端をソケットの下端に合わせ装着してください。レバーを手前に倒すことでデバイスは固定されます。また、デバイス点灯しているピンサイズLEDがデバイスの左上端のピンを指していることを確認してください。



〈24ピン〉

〈28ピン〉

〈32ピン〉

〈40ピン〉

2.3 コントロ - ルプログラムの準備

コントロ - ルプログラム動作環境

機種 : PC - 9801 及び互換機 (ハイレゾモ - ド、LT、HA を除く)
シリアルインタ - フェ - スコネクタが D s u b 2 5 p i n のもの。
メモリ : 130K バイト以上
OS : MS - DOS Ver 3.1 以上

ディスク内容

PT22.EXE メニュー - 方式コントロ - ルプログラム本体
PT22.DEV メニュー - 方式コントロ - ルプログラム用デバイス一覧フ
ァイル
PT22.HLP メニュー - 方式コントロ - ルプログラム用ヘルプファイル
PT22C.EXE コマンド入力方式コント - ルプログラム

注) ご使用のまえに、フロッピ - ディスクのバックアップは必ず行ってください。

Pa l e t t e - 2 2 では 2 種類のコントロ - ルプログラム (以降コントロ - ラと呼び
ます) が用意されています。状況によって使い分けて下さい。

PT22

メニュー - 選択により Pa l e t t e - 2 2 をコントロ - ルします。

PT22.EXE、 PT22.DEV、 PT22.HLP が同じディレクトリ内にある必要があります。

使用方法是《第 3 章 メニュー - コントロ - ラ PT22》を参照してください。

PT22C

コマンド入力により Pa l e t t e - 2 2 をコントロ - ルします。起動時にコマンド
を付加したり、レスポンスファイルを呼ぶことによって自動処理することも可能です。
使用方法是《第 4 章 コマンド入力コントロ - ラ PT22C》を参照してください。

P T 2 2 . E X E の 起 動

— P a l e t t e - 2 2 V E R 1 . 0 0 —

F1	デバイスの選択	ROMバージョン	V1.00
F2	ファイルの読込 / 保存	デバイス	
F3	デバイスの読込 / 書込	メカ名	
F4	バッファクリア	デバイス名	
F5	バッファ編集	デバイス種	
F6	バッファ設定	スタートアドレス	00000
F7	イレ - サの ON / OFF	エンドアドレス	00000
F8	ステ - タスの保存	モード	ALL
F9	D O S コマンドの実行	バッファRAM	
F10	終了	スタートアドレス	00000

HELP ヘルプの表示
ESC 1つ前の画面に戻る

DEVICE FILE MAKE CLEAR EDIT B SET ERASE STATUS DOS QUIT

P T 2 2 C . E X E の 起 動

pt22c

Palette-22 Controller V1.00 Copyright (C) 1992 LOGIC PACK

SYSTEM ROM ver1.00

*System command

? - Display expression ! - MS-DOS

K - Pause Z - Buzzer

Q - Quit

*Set command

T - Device select BS - Buffer start address

BT - Buffer type

*Buffer command

C - Buffer clear D - Dump buffer

*Device command

B - Blank check W - Write

P - Program R - Read

V - Verify E - Erase

*File command

LH - Load Intel HEX file LS - Load Motorola S file

LB - Load Binary file

SH - Save Intel HEX file SS - Save Motorola S file

SB - Save Bin file

PT22C>

2.4 イレ - サの使用法

蓋を開けます。

E P R O M の窓を下側にし、セットラインに合わせて配置します。

蓋を閉めます。

E R A S E スイッチを押すと E R A S E ランプが点灯し、紫外線ランプも点灯します。

約 2 分後 E R A S E ランプが消灯し、紫外線ランプも消灯します。

E R A S E ランプの消灯を確認後、蓋を開けて E P R O M を取り出します。

重要

蓋を開けた状態では紫外線ランプは点灯しないようになっていますが、もし間違えて点灯するようなことになって長時間 ランプの光を直視すること は絶対にさけてください。

3 . 1 P T 2 2 の起動

P T 2 2 の起動は、M S - D O S 上で次のように入力します。

PT22 [<オプション>]

通信が出来ない場合やデバイス一覧ファイル (PT22.DEV) が、カレントディレクトリかパスの通ったディレクトリに見つからない場合 P T 2 2 は起動しません。

3 . 1 . 1 起動オプション

-s 通信ボ - レ - トの設定

-s9600 ボ - レ - トを 9 6 0 0 b p s にします。

-s19200 ボ - レ - トを 1 9 2 0 0 b p s にします。

-s38400 ボ - レ - トを 3 8 4 0 0 b p s にします。

このオプションを指定しない場合 (デフォルト) は 9 6 0 0 b p s になります。したがって -s9600 という指定は実際にはする必要はありません。各ボ - レ - トによって本体のディップスイッチを設定する必要があります。

3 . 2 基本操作

P T - 2 2 の基本的な操作です。

、 C T R L + E	カ - ソルを上に移動
、 C T R L + X	下
、 C T R L + D	右
、 C T R L + S	左
、 C T R L + M	選択、実行
E S C	処理の中止、一つ前のウィンドウに戻る
H E L P	カ - ソルが選択している項目の説明
Y	Y E S
N	N O
F . 1 ~ F . 1 0	各種割り当て

3.3 ステータスウインドについて

このウインドではデバイスデータなどを常に表示するウインドです。

ステータス	
ROMバージョン	V1.00
デバイス	
メーカー名	AMD
デバイス名	Am27C1024
デバイス種	EPROM
スタートアドレス	00000
エンドアドレス	0FFFF
モード	ALL
バッファRAM	
スタートアドレス	00000
バッファタイプ	EVEN = LOW

Palette - 22 本体のシステムROMバージョンを表示

現在選択しているデバイスのメーカー名を表示

現在選択しているデバイスの名前を表示

現在選択しているデバイスの種類を表示

アクセス開始アドレスを表示

アクセス終了アドレスを表示

デバイスのアクセスモードを表示

バッファ設定で設定した値を表示

ワードデバイスの上位バイト下位バイトの対応方式を表示

デバイスの項目のメーカー名、デバイス名、デバイス種についてはデバイスを指定しない限り表示をしません。

バッファタイプはワードデバイスを指定しない限り表示をしません。

3.4 メインメニュー

F・1～F・10又はカ・ソルキ・上下でカ・ソルを動かし で選択します。

ESCキ・で一つ前に戻ります。

HELPキ・でヘルプを表示します。

【F・1】 デバイスの選択

メ・カ・名、サイズでデバイス名を確認しながら設定することができます。

A M D	4KB	27256
富士通	8KB	27C256
日立	16KB	27H256
インテル	32KB	27F256
三菱	64KB	
N E C	128KB	
沖電気	256KB	
T I	512KB	
東芝	64KW	
	128KW	
	256KW	

カ・ソル操作でメ・カ・名、サイズを選ぶと、デバイス名が自動的に変わります。目的のデバイス名が現われたら、カ・ソルをそのデバイス名の上へ持っていき、 で選択完了です。カ・ソルがデバイス名の上でないときに を押しても選択できません。

【 F ・ 2 】 ファイルの読込 / 書込

ファイルのロ - ド

HEXファイルのロ - ド
Sファイルのロ - ド
バイナリファイルのロ - ド

ドライブ = B:
ディレクトリ = ¥
ファイル名 > * . *
オフセットアドレス > 00000000

ファイルの内容をバッファRAMに転送します。

ファイル名

ファイル名を入力します。

ファイル名はワイルドカードを使うことができ、デフォルトで拡張子が次のように設定されています。

インテルHEX * . HEX
モトローラS * . S

オフセット

オフセットを設定します。

データを格納するバッファRAMのアドレスは、ファイルのアドレス情報より、オフセットを引いた値です。またアドレス情報を持たないバイナリファイルは、最初のデータをアドレス0Hとして考えます。

ファイルのセーブ

HEXファイルのロード
Sファイルのロード
バイナリファイルのロード
HEXファイルのセーブ
Sファイルのセーブ

ドライブ = B:
ディレクトリ = ¥
ファイル名 >*.S
スタートアドレス >00000
エンドアドレス >0FFFF
オフセットアドレス >00000000

バッファRAMの内容をファイルに保存します。

ファイル名

ファイル名を入力します。

ファイル名はワイルドカードを使うことができ、デフォルトで拡張子が次のように設定されています。

インテルHEX *.HEX
モトローラS *.S

同じファイル名が存在する場合は上書確認をします。

スタートアドレス

保存したいバッファRAMの先頭アドレスを設定します。

エンドアドレス

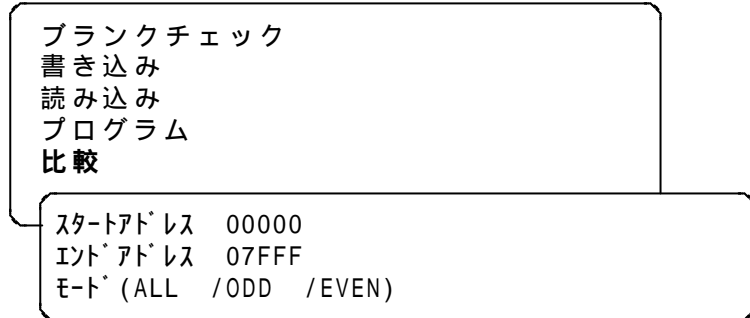
保存したいバッファRAMの終了アドレスを設定します。

オフセット

オフセットを設定します。

ファイルのアドレス情報はバッファRAMのアドレスにオフセットを加えた値です。またアドレス情報を持たないバイナリファイルの場合は、オフセットを設定出来ません。

【 F ・ 3 】 デバイスの読込 / 書込



ブランクチェック

対象デバイスの内容が消去されているかどうかをチェックします。

書き込み

デバイスに <スタートアドレス> から <エンドアドレス> までを<モード>により書き込み、その後ベリファイチェックを行います。

<モード> ALL :全数アドレス
ODD :奇数アドレス
EVEN :偶数アドレス

書き込みエラーが生じた場合はエラーを起こしたデバイスデータとそのアドレス、書き込むべきバッファRAMのデータを表示します。

読み込み

デバイスの内容を<スタートアドレス> から <エンドアドレス> まで<モード>によりバッファRAMに読み込みます。

<モード> ALL :全数アドレス
ODD :奇数アドレス
EVEN :偶数アドレス

プログラム

ブランクチェック、書き込み、コンペアチェックを連続して行うコマンドです。

比較

デバイスの内容とバッファRAMの内容をデバイスの <スタートアドレス> から <エンドアドレス> までの内容を<モード>により比較検査します。

<モード> ALL :全数アドレス
ODD :奇数アドレス
EVEN :偶数アドレス

ベリファイエラーが生じた場合はエラーを起こしたしたデバイスのデータとそのアドレス、バッファRAMのデータを表示します。

イレス

EEPROM、フラッシュメモリのデータ消去です。

デバイスセレクトでEEPROMがセレクトされていると、この項目は選択出来ません。

EEPROMは消去アドレスを設定できますが、フラッシュメモリのアドレスのセットは出来ません。

【F・4】 バッファクリア

バッファRAMの内容をデータFFHでクリアします。

【F・5】 バッファ編集

Palette-22のバッファRAMを画面上で編集します。

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F	
00000	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00010	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00020	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00030	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00040	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00050	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00060	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00070	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00080	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
00090	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
000A0	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
000B0	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
000C0	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
000D0	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
000E0	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
000F0	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF

画面上に 2 5 6 バイトを表示しカ - ソル等で移動、書き換えをします。

カ - ソル左右 1 バイトアドレス

カ - ソル上下 1 6 バイトアドレス

ROLLUP - 2 5 6 バイトアドレス

ROLLDOWN + 2 5 6 バイトアドレス それぞれ移動します。

ROLLUP、ROLLDOWNでは画面を書き換えます

〔F・1〕 アドレス

指定アドレスを含む 2 5 6 バイトを表示します。

カ - ソルは指定アドレス上に移動します。

〔F・2〕 サ - チ

指定したデ - タが最初に見つかったアドレスを含む 2 5 6 バイトを表示します。

カ - ソルはデ - タの見つかったアドレス上に移動します。

現在のカ - ソル位置のアドレス以降を検索します。

〔F・3〕 フィル

指定したアドレス間を指定デ - タで埋めます。

〔F・4〕 ム - ブ

指定したアドレス間を指定アドレス先にコピー - します。

〔F・5〕 リバ - ス

指定したアドレス間のデ - タをビット反転します。

〔F・6〕 クリア

メインメニュー - のバッファクリアと同じです。

〔F・7〕 1 0 1 6 進

入力した 1 0 進値を 1 6 進値に変換して表示します。

入力できる最大値は 6 5 5 3 5 までです。

〔F・8〕 1 6 1 0 進

入力した 1 6 進値を 1 0 進値に変換して表示します。

入力できる最大値は F F F F までです。

【 F ・ 6 】 バッファ設定

スタ - トアドレスの設定

バッファ R A M のスタ - トアドレスを設定します。

詳しくは、付録 A . 2 バッファスタ - トアドレスをご覧ください。

バッファタイプの設定

デバイスがワ - ドデバイス有的时候に E V E N (L O W / H I G H) の設定ができます。ワ - ドデバイスの上位、下位バイトに対するバッファ R A M の対応法です

詳しくは、付録 A . 4 バッファタイプをご覧ください。

【 F ・ 7 】 イレ - サの O N / O F F

イレ - サ - ランプを O N / O F F します。

【 F ・ 8 】 ステ - タスの保存

デバイスコ - ド、アドレス、ファイルネ - ム等のデ - タをファイルに書き込み、次回からの設定を自動で行なうものです。また設定を読み込むことも出来ます。

【 F ・ 9 】 D O S コマンドの実行

チャイルドプロセスを起動して D O S コマンドを実行します。

EXIT で戻ります。

【 F ・ 1 0 】 終了

P T 2 2 を終了して、M S - D O S のコマンドに戻ります。

第 4 章

コマンド入力コントロール - ラ PT22C

4.1 PT22Cの起動

PT22Cの起動は、MS-DOS上で次のように入力します。

```
A>pt22c [<オプション>] [<コメント> <コメント>.....]
```

コマンドラインにコマンドを書かずに起動した場合を説明します。

起動するとプロンプトは "PT22C>" となり、PT22Cのコマンドの入力待ちとなります。コマンド、各パラメータ間にスペースを入れることが可能で、1行に1コマンドだけ入力することができます。

例

```
PT22C> t 23
*Device select
OK: code = 23 32KBYTE EPROM
```

```
PT22C>
```

またPT22C起動時にコマンド列を付加することによって自動処理することが出来ます。この方法はMS-DOSでバッチ処理させる場合に使用します。コマンド、各パラメータ間にスペースを入れることはできません。またエラーが発生した場合にはそれ以降のコマンドは行わずにMS-DOSに戻ります。

例

```
A>pt22c t23 q
Palette-22 Controler V1.00 Copyright (C) 1992 LOGIC PACK
SYSTEM ROM ver1.00
*Device select
OK: code = 23 32KBYTE EPROM
```

```
A>
```

4.1.1 起動オプション

PT22Cの起動オプションには、以下のものがあります。オプションスイッチは小文字、大文字どちらでもかまいません。

-s 通信ボ - レ - トの設定

-s9600 ボ - レ - トを9600bpsにします。

-s19200 ボ - レ - トを19200bpsにします。

-s38400 ボ - レ - トを38400bpsにします。

このオプションを指定しない場合(デフォルト)は9600bpsになります。したがって -s9600 という指定は実際にはする必要はありません。各ボ - レ - トによって本体のディップスイッチを設定する必要があります。

@<ファイル> コマンドレスポンスファイル

<ファイル> からPT22Cコマンドを読み込んで実行します。コマンド行が長すぎる場合に有効です。PT22Cの起動時に付加するコマンドとは違い以下の記述方法になります。

1) コマンド、各パラメ - タとの間にスペ - スを入れることが可能で、1行に1コマンド書くことができます。

2) ';' (セミコロン) の後にコメントを書くことができます。

例

```
A>pt22c @test.res
Palette-22 Controller V1.00 Copyright (C) 1992 LOGIC PACK
SYSTEM ROM ver1.00
*Device select
OK: code = 23 32KBYTE EPROM

*Load Intel HEX file
  file name = B:TEST.HEX
  offset    = 00000000H
OK: Load = 779 line

*Program device
  start address = 00000H
  end address   = 07FFFH
  mode          = ALL
OK: SUM = 502DH

A>
```

test.res の内容

```
t 23          ; デバ`イ = Am27C256
lh b:test.hex ; ファイルロ`ト
p            ; プ`ロ`グラム
q           ; 終了
```


4.2 PT22Cのメッセージ

メッセージには以下の種類があります。

1) "ERROR:" に続くメッセージ

このエラーは入力したコマンド、パラメータに不都合があった場合に表示されます。付録Aを参考にしてください。

2) "OK:"、"WARNING:"

コマンドの実行結果を示します。各コマンドの説明を参考にしてください。

3) "FERROR:"

致命的エラーが起こったときに表示されます。代表的なものとしては、指定したドライブにディスクが挿入されていない場合などが挙げられます。

4.3 PT22Cのコマンド

PT22Cのコマンドには以下のものがあります。

システムコマンド

? コマンド一覧表示
! MS-DOS
K ポーズ
Z ブザー
Q 終了

設定コマンド

T デバイスセレクト
BS バッファスタートアドレス
BT バッファタイプ

バッファコマンド

C バッファクリア
D バッファダンプ

デバイスアクセスコマンド

B ブランクチェック
W ライト
P プログラム
R リード
V ベリファイ
E イレス

ファイルコマンド

LH ロードファイル(インテルHEXフォーマット)
LS ロードファイル(モトローラSフォーマット)
LB ロードファイル(バイナリ)
SH セーブファイル(インテルHEXフォーマット)
SS セーブファイル(モトローラSフォーマット)
SB セーブファイル(バイナリ)

4.3.1 コマンド解説の規約

PT22Cのコマンドは、コマンドとパラメータによって構成されています。パラメータは省略できる場合もあり、その場合はカギカッコ "[...]" で示します。選択要素がある場合には中カッコ "{'. ' or '. '}" で示します。パラメータが複数の場合はカンマ "," で区切ります。

コマンド解説での実行例は随時コマンド入力時の表示を示します。

処理の時間のかかるコマンドは実行中に ESC キーを押すことによって処理を中止します。

4.3.2 システムコマンド

? コマンド (コマンド一覧表示)

【書式】 ?

【機能】 コマンド一覧表示

【解説】

PT22C で定義されているコマンドの一覧表示を行います。

例

```
PT22C>?
*System command
? - Display expression      ! - MS-DOS
K - Pause                    Z - Buzzer
Q - Quit
*Set command
T - Device select           BS - Buffer start address
BT - Buffer type
*Buffer command
C - Buffer clear            D - Dump buffer
*Device command
B - Blank check            W - Write
P - Program                R - Read
V - Verify                 E - Erase
*File command
LH - Load Intel HEX file   LS - Load Motorola S file
LB - Load Binary file      SS - Save Motorola S file
SH - Save Intel HEX file
SB - Save Bin file
```

! コマンド (M S - D O S)

【書式】 !

【機能】 M S - D O S の実行

【解説】

一時的に M S - D O S を実行します。D O S プロンプトで EXIT を実行することで P T 2 2 C に戻ります。

例

```
PT22C>!
Type EXIT to return to Palette-22
Command Ⅱ`-ジ`ヨ 3.30B
```

```
H>dir test.*
```

ドライブ H: のディスクのボリュームラベルは 10S10CE (H)
ディレクトリは H:¥

```
TEST    BAK    59890  92-10-20  14:55
TEST    HEX    59890  92-10-20  14:55
TEST    S      79886  92-10-20  16:03
TEST    BIN    32768  92-10-20  16:06
```

4 個のファイルがあります。
393216 バイトが使用可能です。

```
H>exit
PT22C>
```

K コマンド (ポ - ズ)

【書式】 K [<文字列>]

【機能】 ポ - ズ

【解説】

<文字列> を表示しキ - 入力を待ちます。何らかのキ - 入力があると次のコマンドを実行します。ESC キ - を押すと、以降のコマンド列を中断します。<文字列> を省略する "Hit any key" と表示されます。このコマンドはバッチ処理の時に一時中止したいときに使用します。"PT22C>" プロンプト上で使っても何の意味も持ちません。

Zコマンド (ブザ -)

【書式】 Z

【機能】 ブザ -

【解説】

PC9801のスピーカを鳴らします。このコマンドはバッチ処理の時に注意を促す時に使用します。K (ポーズ) コマンド同様、"PT22C>" プロンプト上で使っても何の意味も持ちません。

Qコマンド (終了)

【書式】 Q

【機能】 終了

【解説】

PT22Cを終了します。

4.3.3 設定コマンド

Tコマンド (デバイスセレクト)

【書式】 T[<コード>]

【機能】 デバイスセレクト

【解説】

使用するデバイスによってデバイス一覧表のコードを指定します。

例 AMD社製 Am27C256の場合

```
PT22C>t23
*Device select
OK: code = 23 32KBYTE EPROM
```

<コード> が省略された場合には以前に設定されたコードを表示します。

例

```
PT22C>t
*Device select
OK: code = 23 32KBYTE EPROM
```

指定した <コード> が P a l e t t e - 2 2 で定義されていない場合はエラーになります。

例

```
PT22C>t29
*Device select
WARNING: This code is not
```

BSコマンド (バッファスタ - トアドレス)

【書式】 BS[<コード>]

【機能】 バッファスタ - トアドレスセット

【解説】

デバイスの 0H アドレスに対応するバッファRAMのアドレスを設定します。このコマンドはデフォルト値は 0H で、バッファRAMの内容を2つのデバイスに書き込むようなときに使用します。

例

```
PT22C>bs0
*Set Buffer start address
OK: start address = 00000
```

<アドレス> が省略されると現在の設定値を表示します。

例

```
PT22C>bs
*Set Buffer start address
OK: start address = 00000
```

詳細は付録A《A.2 バッファスタ - トアドレス》を参考にしてください。

BT コマンド (バッファタイプ)

【書式】 BT[{'L' or 'H'}]

【機能】 バッファタイプセット

【解説】

対象デバイスがワ - ドデバイス時にデバイスの上位バイト、下位バイトにバッファRAMをどう対応させるか設定します。対象デバイスがワ - ドデバイスでないところのこのコマンドは意味を持ちません。

L : バッファRAM 偶数アドレスのデータをワ - ドデバイスの下位バイトデータに対応

H : バッファRAM 偶数アドレスのデータをワ - ドデバイスの上位バイトデータに対応

例

```
PT22C>btl
*Buffer type
OK: Even = Low
```

例

```
PT22C>bth
*Buffer type
OK: Even = High
```

パラメ - タが省略されると現在の設定値を表示します。

例

```
PT22C>bt
*Buffer type
OK: Even = Low
```

詳細は付録 A 《A . 4 バッファタイプ》を参考にしてください。

4.3.4 バッファコマンド

Cコマンド (バッファクリア)

【書式】 C

【機能】 バッファRAMクリア

【解説】

バッファRAMの内容をデータ FFH でクリアします。

例

```
PT22C>c
*Buffer clear
OK
```

Dコマンド (バッファダンプ)

【書式】 D[<スタートアドレス>][,<エンドアドレス>]

【機能】 バッファRAMダンプ表示

【解説】

<スタートアドレス> から <エンドアドレス> までのバッファRAMの内容をダンプ表示します。
<スタートアドレス>、<エンドアドレス>を省略した場合にはそれぞれ 0H、7FFFFH とみなします。

例

```
PT22C>d2000,20ff
*Dump buffer RAM
  Add +0 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +A +B +C +D +E +F
02000 11 2A 20 CD 44 5E AF C1 C1 C1 C1 C9 3A 30 30 30 .* .D^.....:000
02010 30 30 30 30 31 46 46 0D 0A 1A 00 3A 30 32 00 30 00001FF.....:02.0
02020 32 00 0D 0A 00 3A 00 30 30 00 0D 0A 00 C5 D1 E5 2.....:00.....
      :
      ( 中略 )
      :
020D0 E5 23 23 1E 02 CD B8 0B 21 CD 84 86 32 CD 84 E1 .##.....!...2...
020E0 E5 23 23 23 23 1E 02 CD B8 0B 21 CD 84 86 32 CD .####.....!...2.
020F0 84 E5 E5 CD 0C 61 1E 06 CD BC 08 E1 22 07 85 E1 .....a....."....
OK
```


4.3.5 デバイスアクセスコマンド

デバイスアクセスコマンドには以下の共通点があります。(B、Eコマンドを除く)

【書式】 <コマンド> [<スタートアドレス>][, [<エンドアドレス>][, {'A' or 'O' or 'E'}]

<スタートアドレス> 無指定の場合は 0H となり、指定できる範囲は 0H ~ デバイス最終アドレスです。

<エンドアドレス> 無指定の場合はデバイス最終アドレスとなり、指定できる範囲は <スタートアドレス> ~ デバイス最終アドレスです。

'A' 'O' 'E' バッファRAMとデバイスとの対応方法を示します。

A(All) バッファRAMの全アドレスを対象にします。

O(Odd) バッファRAMの奇数アドレスを対象にします。

E(Even) バッファRAMの偶数アドレスを対象にします。

無指定の場合は A(All) となります。

詳細は付録A《A.3 デバイスアクセスモード》を参考にしてください。

随時コマンド入力の際は、セットしたパラメータを表示し、これでいいかどうか入力待ちになります。ここで 'Y' または 'y' を入力することでコマンド実行し、'N' または 'n' を入力するとコマンドを中止します。

デバイスアクセスコマンドは選択したデバイスによって処理時間のかかるものもあり、処理中は "WAIT" と表示されます。

Bコマンド (ブランクチェック)

【書式】 B [<スタートアドレス>][, <エンドアドレス>]

【機能】 ブランクチェック

【解説】

<スタートアドレス> から <エンドアドレス> までのデバイスの内容が消去されているかどうかをチェックします。

例

```
PT22C>b
*Blank check
OK
```

ブランクエラー時にはデ - タが F F H でない最初のアドレスとデ - タを表示します。

例 1 0 0 H アドレスのデ - タが 3 1 H であった場合

```
PT22C>b
*Blank check
WARNING: blank error address - data
          00100H - 31H
```

R コマンド (デバイスリ - ド)

【書式】 R[<スタートアドレス>][,<エンドアドレス>][,{'A' or 'O' or 'E'}]

【機能】 デバイスリ - ド

【解説】

<スタートアドレス> から <エンドアドレス> までのデバイスの内容をバッファRAMに読み込みます。

A (All) デバイスの内容をバッファRAMの全アドレスに読み込みます。

O (odd) デバイスの内容をバッファRAMの奇数アドレスに読み込みます。

E (even) デバイスの内容をバッファRAMの偶数アドレスに読み込みます。

V コマンド (デバイスベリファイ)

【書式】 V[<スタートアドレス>][,<エンドアドレス>][,{'A' or 'O' or 'E'}]

【機能】 デバイスベリファイチェック

【解説】

<スタートアドレス> から <エンドアドレス> までのデバイスの内容をバッファRAMと比較チェックします。

A (All) バッファRAMの全アドレスの内容とデバイスを比較します。

O (odd) バッファRAMの奇数アドレスの内容とデバイスを比較します。

E (even) バッファRAMの偶数アドレスの内容とデバイスを比較します。

エラー - がでた場合はベリファイに失敗したデバイスのアドレス、データとバッファRAMのデータを表示します。

例 ベリファイエラー -

```
PT22C>v
*verify device
  start address = 00000H
  end address   = 07FFFH
  mode          = ALL
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
WARNING: verify error address : RAM - ROM
          00000H : 31H - FFH
```

Wコマンド（デバイスライト）

【書式】 W[<スタートアドレス>][,<エンドアドレス>][,{'A' or 'O' or 'E'}]

【機能】 デバイスライト

【解説】

<スタートアドレス> から <エンドアドレス> までデバイスにバッファRAMの内容を書き込み、その後ペリファイチェックを行います。

A (All) バッファRAMの全アドレスの内容をデバイスに書き込みます。

O (odd) バッファRAMの奇数アドレスの内容をデバイスに書き込みます。

E (even) バッファRAMの偶数アドレスの内容をデバイスに書き込みます。

例

```
PT22C>w
*Write device
  start address = 00000H
  end address   = 07FFFH
  mode          = ALL
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: SUM = 5D20H
```

書き込み中にエラー - がでた場合は書き込みに失敗したデバイスのアドレス、データと書き込むべきバッファRAMのデータを表示します。

例 ライトエラー -

```
PT22C>w
*Write device
  start address = 00000H
  end address   = 07FFFH
  mode          = ALL
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
WARNING: write error  address : RAM - ROM
                    00000H : 31H - 00H
```

書き込み後のペリファイチェック中にエラー - がでた場合はペリファイに失敗したデバイスのアドレス、データと書き込んだはずのバッファRAMのデータを表示します。

例 ペリファイエラー -

```
PT22C>w
*Write device
  start address = 00000H
  end address   = 07FFFH
  mode          = ALL
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
WARNING: verify error address : RAM - ROM
                    00000H : 31H - FFH
```

P コマンド (デバイスプログラム)

【書式】 P[<スタートアドレス>][,[<エンドアドレス>][,{'A' or '0' or 'E'}]

【機能】 デバイスプログラム

【解説】

ブランクチェックを行った後に、バッファ R A M の内容をデバイスに <スタートアドレス> から <エンドアドレス> まで書き込み、その後ベリファイチェックを行います。

例

```
PT22C>p
*Program device
  start address = 00000H
  end address   = 07FFFH
  mode          = ALL
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: SUM = 5D20H
```

ブランクエラー、ライトエラー、ベリファイエラーが起り得ます。詳細は B、W コマンドを参照してください。

E コマンド (デバイスイレ - ス)

【書式 1】 E[<スタートアドレス>][,[<エンドアドレス>]

【書式 2】 E

【機能】 デバイスイレ - ス

【解説】

データ消去を行います。このコマンドは E E P R O M、F L A S H M E M O R Y をデバイスセレクトしている時に使用できます。

書式 1 は E E P R O M の <スタートアドレス> から <エンドアドレス> までのデータ消去を行います。

例

```
PT22C>e0,ff
*Erase device
  start address = 00000H
  end address   = 000FFH
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK
```

書式 2 では F L A S H M E M O R Y のデータ消去を行います。アドレス範囲の指定はできません。

例

```
PT22C>e
*Erase device
  OK? (Y/N)-->y
OK
```

4.3.6 ファイルコマンド

随時コマンド入力ときは、セットしたパラメータを表示し、これでいいかどうか入力待ちになります。ここで 'Y' または 'y' を入力することでコマンド実行し、'N' または 'n' を入力するとコマンドを中止します。

<オフセット> の詳細は付録A《A.1 オフセット》を参考にしてください。

ロードファイル

【書式1】 LH<ファイル名>[,<オフセット>]

【書式2】 LS<ファイル名>[,<オフセット>]

【書式3】 LB<ファイル名>[,<オフセット>]

【機能】 ロードファイル

【解説】

ファイルをバッファRAMに転送します。データを格納するバッファRAMのアドレスはファイルのアドレス情報より <オフセット> を引いた値です。書式1はインテルHEXフォーマット形式のファイル、書式2はモトローラSフォーマット形式のファイル、書式3ではバイナリファイルをロードします。

例

```
PT22C>lh b:test.hex
*Load Intel HEX file
  file name = B:TEST.HEX
  offset    = 00000000H
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: Load = 779 line
```

例

```
PT22C>ls b:test.s
*Load Motorola S file
  file name = B:TEST.S
  offset    = 00000000H
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: Load = 667 line
```

例

```
PT22C>lb b:test.bin
*Load Binary file
  file name = B:TEST.BIN
  offset    = 00000000H
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: Load = 59890 byte
```

転送中にチェックサムエラーが発生すると転送を中止して表示します。(LB コマンドを除く)

例

```
PT22C>lh b:test.hex
*Load Intel HEX file
  file name = B:TEST.HEX
  offset    = 00000000H
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
WARNING: check sum error
```

セ - ブファイル

【書式 1】 SH<ファイル名>,[<スタートアドレス>],[<エンドアドレス>],[<オフセット>]

【書式 2】 SS<ファイル名>,[<スタートアドレス>],[<エンドアドレス>],[<オフセット>]

【書式 3】 SB<ファイル名>,[<スタートアドレス>],[<エンドアドレス>]

【機能】 セ - ブファイル

【解説】

<スタートアドレス> ~ <エンドアドレス> までのバッファRAMの内容をファイルにします。ファイルのアドレス情報はバッファRAMのアドレスに <オフセット> を加えた値です。

書式 1 はインテルHEXフォーマット形式のファイル、書式 2 はモトローラSフォーマット形式のファイル、書式 3 はバイナリファイルにします。

<スタートアドレス>、<オフセット> を省略した場合は 0H となります。<エンドアドレス>は省略できません。<スタートアドレス>、<エンドアドレス>の指定範囲は 0H ~ 7FFFFH までです。

例

```
PT22C>shb:save.hex,,7fff
*Save HEX file
  file name      = B:SAVE.HEX
  start address  = 00000H
  end address    = 07FFFH
  offset        = 00000000H
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: Save = 1025 line
```

例

```
PT22C>ssb:test.s,,7fff
*Save S file
  file name      = B:TEST.S
  start address  = 00000H
  end address    = 07FFFH
  offset        = 00000000H
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: Save = 1025 line
```

例

```
PT22C>sbb:test.bin,,7fff
*Save Binary file
  file name      = B:TEST.BIN
  start address  = 00000H
  end address    = 07FFFH
  Set parameter OK? (Y/N)-->y
OK: Save = 0032768 byte
```

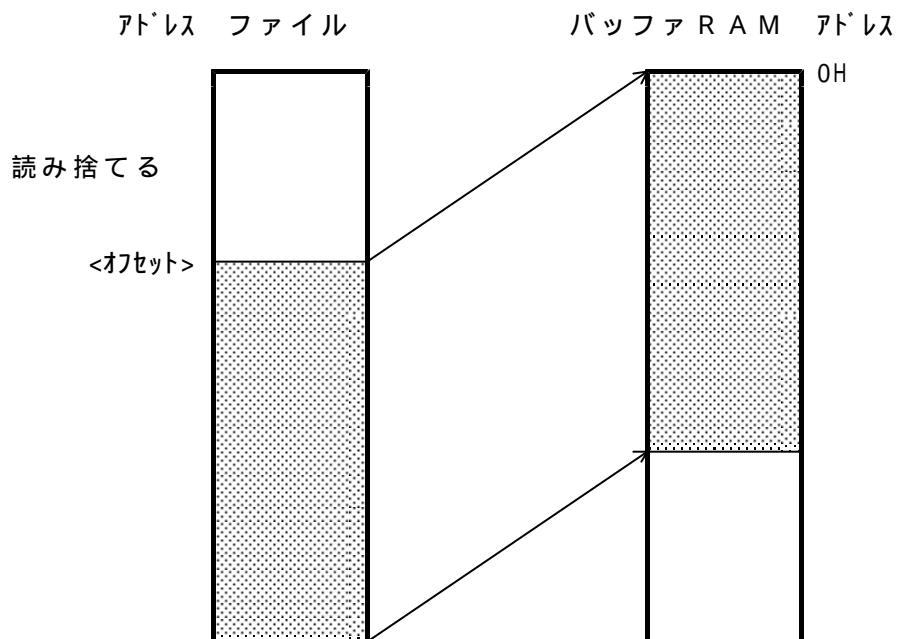
随時コマンド入力の際は、指定したファイルがすでに存在している時、上書きしていかどうか入力待ちになります。ここで 'Y' または 'y' を入力することでコマンド実行し、 'N' または 'n' を入力するとコマンドを中止します。

A.1 オフセット

オフセットとは Palette - 22 本体のバッファRAMとファイルの転送を行う場合における転送フォーマット内のアドレス情報に対する操作をいいます。

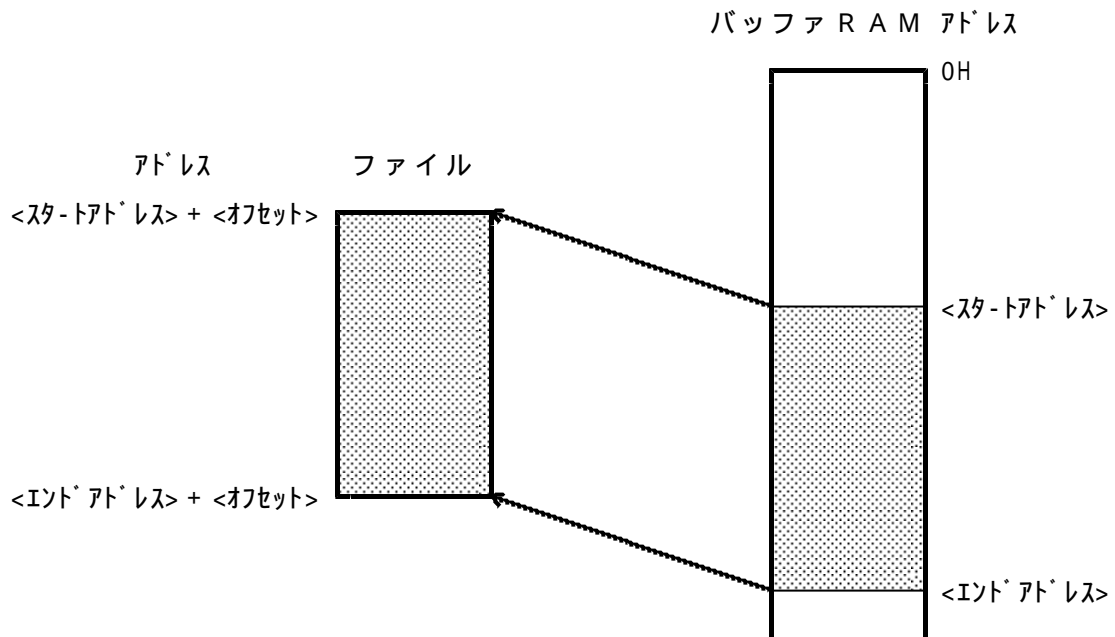
A.1.1 ファイルの読込(ロード) : ファイル バッファRAM

データを格納するバッファRAMのアドレスは、ファイルのアドレス情報より、オフセットを引いた値です。またアドレス情報を持たないバイナリファイルの場合は、最初のデータのアドレスを 0H として考えます。



A . 1 . 2 ファイルの保存 (セ - ブ) : バッファRAM ファイル

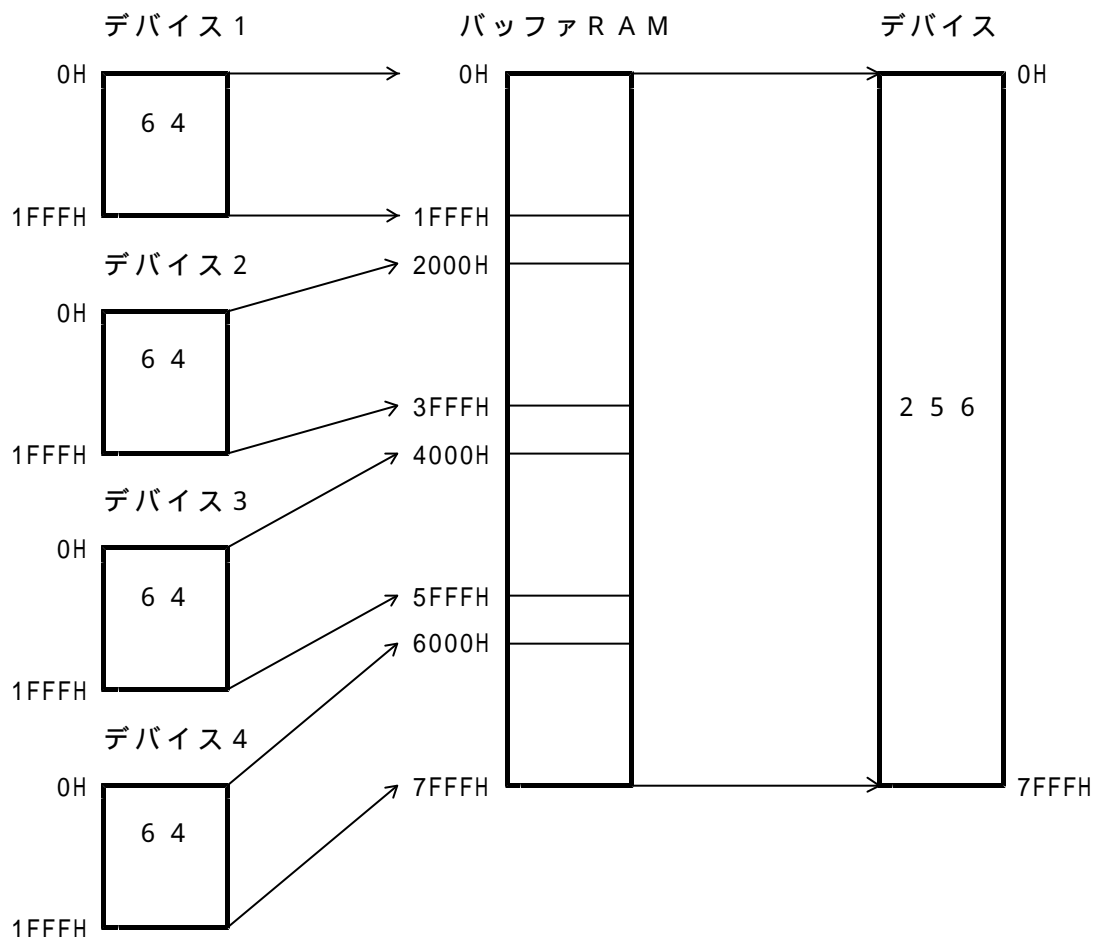
バッファRAMのアドレスにオフセットを加算した値が転送フォーマット内のアドレス情報になります。またアドレス情報を持たないバイナリファイルの場合は、オフセットを設定できません。



A.2 バッファスタ - トアドレス

デバイスをアクセスするときデバイスの0Hアドレスに対応させるバッファRAMのアドレスです。複数のデバイスの内容を1個のデバイスに書き込んだり、1個デバイスの内容を複数のデバイスに書き込んだりしたいときにこの設定が必要になります。

例 4つの64Kビットのデバイスの内容を256Kのデバイスに書き込む



デバイス選択で64Kを選ぶ

バッファスタ - トアドレスを 0H に設定して読み込む

バッファスタ - トアドレスを 2000H に設定して読み込む

バッファスタ - トアドレスを 4000H に設定して読み込む

バッファスタ - トアドレスを 6000H に設定して読み込む

デバイス選択で256Kを選ぶ

バッファスタ - トアドレスを 0H に設定して書き込む

A.3 デバイスアクセスモード

デバイスアクセスモードとはデバイスとバッファRAMとの対応方法です。モードには以下の3種類があります。

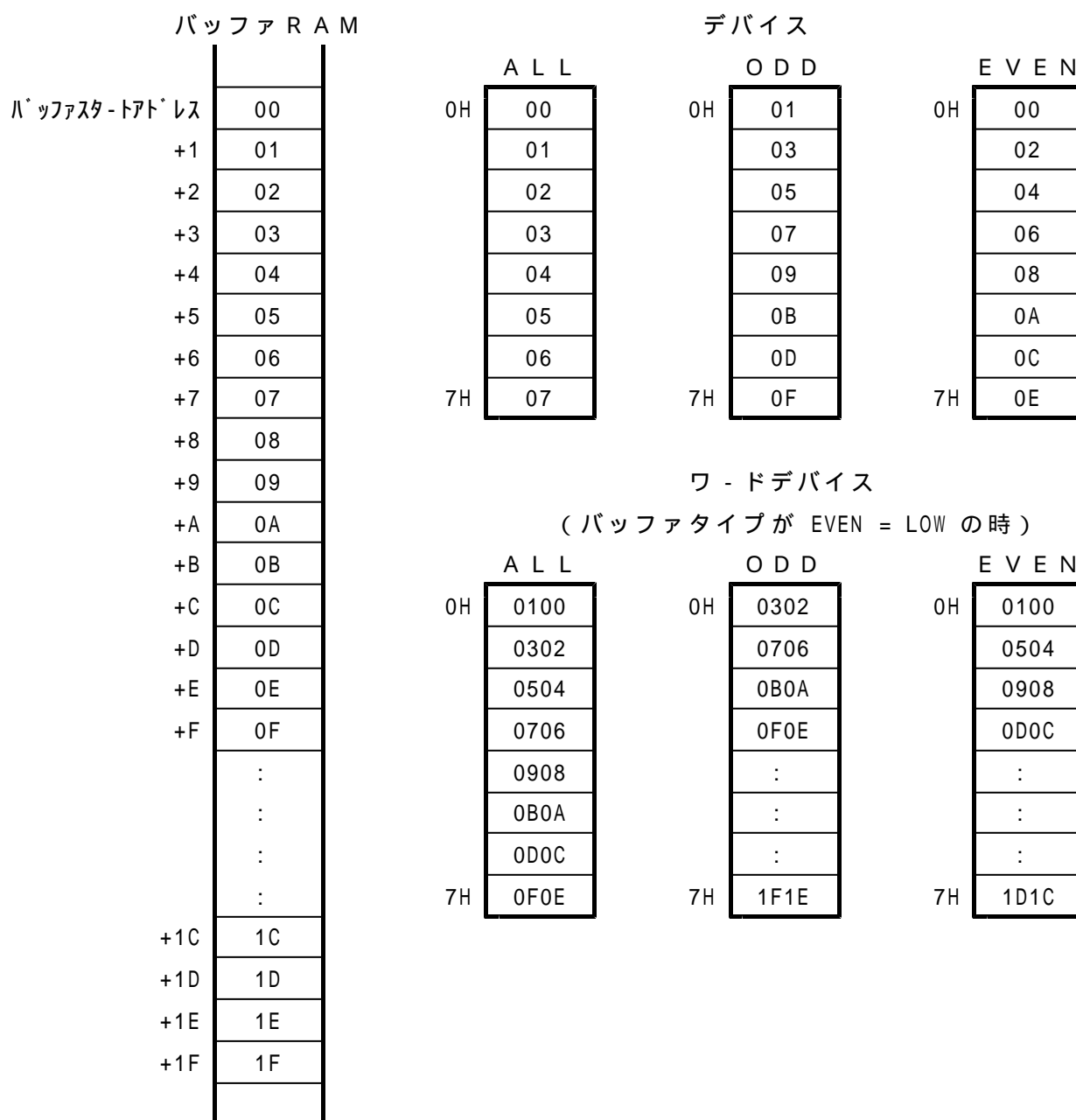
ALL : バッファRAMの全数アドレスを対象

ODD : バッファRAMのデバイスに対応する奇数アドレスを対象

EVEN : バッファRAMのデバイスに対応する偶数アドレスを対象

ここではバッファRAMアドレスの説明は設定したバッファスタートアドレスを0Hとみなした場合のイメージ的なアドレスになります。

例 0~7Hまで、書き込みを行う



A . 4 バッファタイプ

ワ - ドデバイスをアクセスする場合のワ - ドデバイスの上位、下位バイトに対するバッファRAMの対応方法です。本体のバッファRAMが1アドレス1バイトデータなのに対して、ワ - ドデバイスは1アドレス2バイトデータで構成されているためにこの設定が必要になります。

EVEN = LOW : バッファRAMの偶数アドレス（設定したバッファスタートアドレスを0Hとみなす）をワ - ドデバイスの下位バイト（D0 ~ D7）に対応させます。

EVEN = HIGH : バッファRAMの偶数アドレスをワ - ドデバイスの上位バイト（D8 ~ D15）に対応させます。

例 0 ~ 7Hまで、書き込みを行う

バッファRAM		ワ - ドデバイス	
バッファスタートアドレス		EVEN = LOW	EVEN = HIGH
00	00	0H 0100	0H 0001
+1	01	0302	0203
+2	02	0504	0405
+3	03	0706	0607
+4	04	0908	0809
+5	05	0B0A	0A0B
+6	06	0D0C	0C0D
+7	07	7H 0F0E	7H 0E0F
+8	08		
+9	09		
+A	0A		
+B	0B		
+C	0C		
+D	0D		
+E	0E		
+F	0F		

付録 B

P T 2 2 C エラ - メッセ - ジー覧

"ERROR:" に続くメッセ - ジはコマンドの解析結果が異常な場合を示します。また本体との通信が異常な場合にも当てはまります。

通信エラ - : ケ - ブル、電源を確認してください

Pa l e t t e - 2 2 本体との通信にエラ - が生じたときに発生します。原因としてはケ - ブルがつながっていない、電源が入っていない、本体とコントロ - ラの通信スピ - ドが合っていない等です。

return of R2400 is XX

本体から返ってきたコ - ドがコントロ - ラの予期せぬコ - ドである場合に発生します。発生する原因は以下のものです。

本体との通信にずれが生じた

P T 2 2 C . E X E または本体システムプログラムのバグ

パラメ - タエラ -

パラメ - タに不適当な指定があります。

アドレスの指定が誤り

アドレス入力部に不適当なアドレスが指定された場合に発生します。

パラメ - タの数が違います

コマンドに続く必要なパラメ - タの数があいません。省略できないパラメ - タを省略した場合に発生します。パラメ - タの数や、省略の可否はコマンドによって違います。またパラメ - タどうしの区切りもじに ", "(カンマ) を使用しなかった場合にも発生します。

デバイスセレクトされていません

Pa l e t t e - 2 2 本体に電源を入れてから一度もデバイスセレクトされず、デバイスアクセスコマンドを発行した場合に発生します。また、デバイスセレクトされていない状態でTコマンド(デバイスセレクト)をパラメ - タ無しで発行した場合にも発生します。

コマンドエラ -

指定されたコマンドが認識できません。

ディスクがいっぱいです

指定されたディスクの空き容量が足りません。

ファイルが見つかりません

指定したファイルがオ - プンできません。そのファイルが存在するか確認してください。

E P R O Mはデ - タ消去できません

E コマンド (デバイスイレ - ス) を使って E P R O M を消去することはできません。

レスポンスファイルがオ - プンできません

@ オプションを指定して起動したときに発生します。

指定したコマンドレスポンスファイルがオ - プンできません。

ボ - レ - トのセットに失敗しました

-S オプションを指定して起動したときに発生します。

指定した数値が 9600、19200、38400以外を設定したときや、使用しているパソコンが指定した通信スピ - ドを設定できない時です。P C 9 8 0 1ではシステムクロックが 8 M H z、1 6 M H z のときは通信スピ - ドを 19200、38400 にすることはできません。E P S O Nの互換機では、システムクロックと通信用クロックを別々に持っているので 19200、38400 を指定できるようです。

オプションエラー -

指定したオプションが定義されていません。

DOS / Vバージョンについて

DOS / Vバージョンでは、以下のオプションが追加されています。
(PT22.EXE, PT22C.EXE共通)

- Pオプション

シリアルポートのCOM2を使用するときのオプションです。
このオプションを付けない場合はCOM1を使用します。

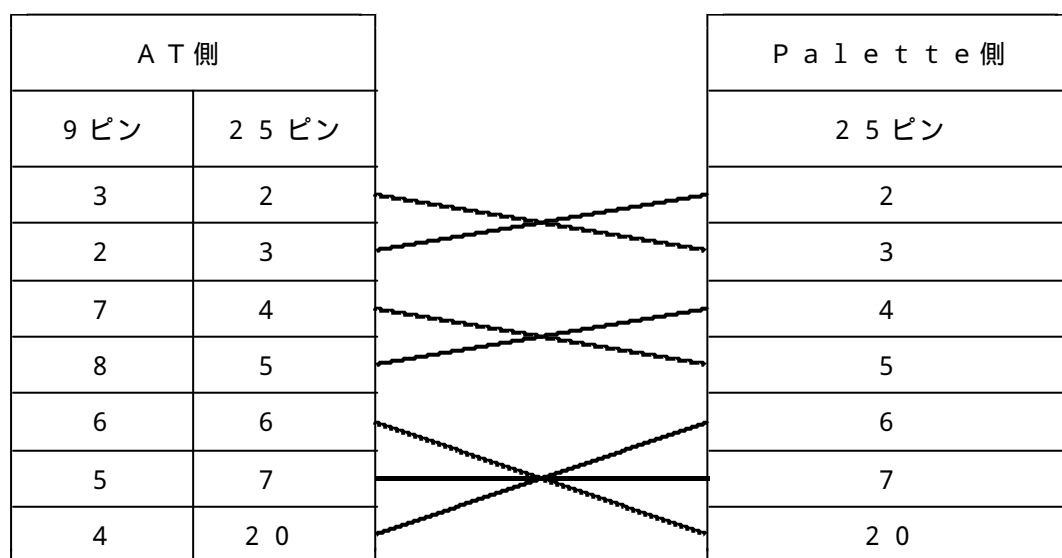
使用例

PT22 -P

RS - 232Cケーブルの接続

付属のケーブルは、9ピン - 25ピンとなっていますが、25ピン - 25ピンを使う場合ケーブルを、製作しなければなりません。

ピン配列と結線は以下ようになります。



WE . EXEについて

WE . EXEはPT22 . EXEが内部で使用しますので。
PT22 . EXEと同じディレクトリかパスの通ったディレクトリに置くようにして下さい。